

EFR-26C **2-STROKE** 手押し式エンジン草刈機 取扱説明書 (保証書付)

用途

雑草の草刈り

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

各部の名称と付属品	2
安全上のご注意	4

準備

組み立て／折りたたみ	9
ブレード	15
給油	16
エンジンの始動／停止	17
運搬	21

使用方法

作業前点検	22
草を刈る	23

保守・点検

お手入れと保管	26
定期点検を行いましょう	28
「故障かな?」と思ったら (故障と処置)	29
整備	31

その他

仕様	34
パーツのご注文は	35
保証書	裏表紙

動画をご覧ください。



動画で見る

- ・ 動画の内容は予告なく変更・削除されることがあります。
- ・ 通信料金はおお客様のご負担となります。

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
ございました。

- ・ ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- ・ お読みになった後も保管してください。
- ・ 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

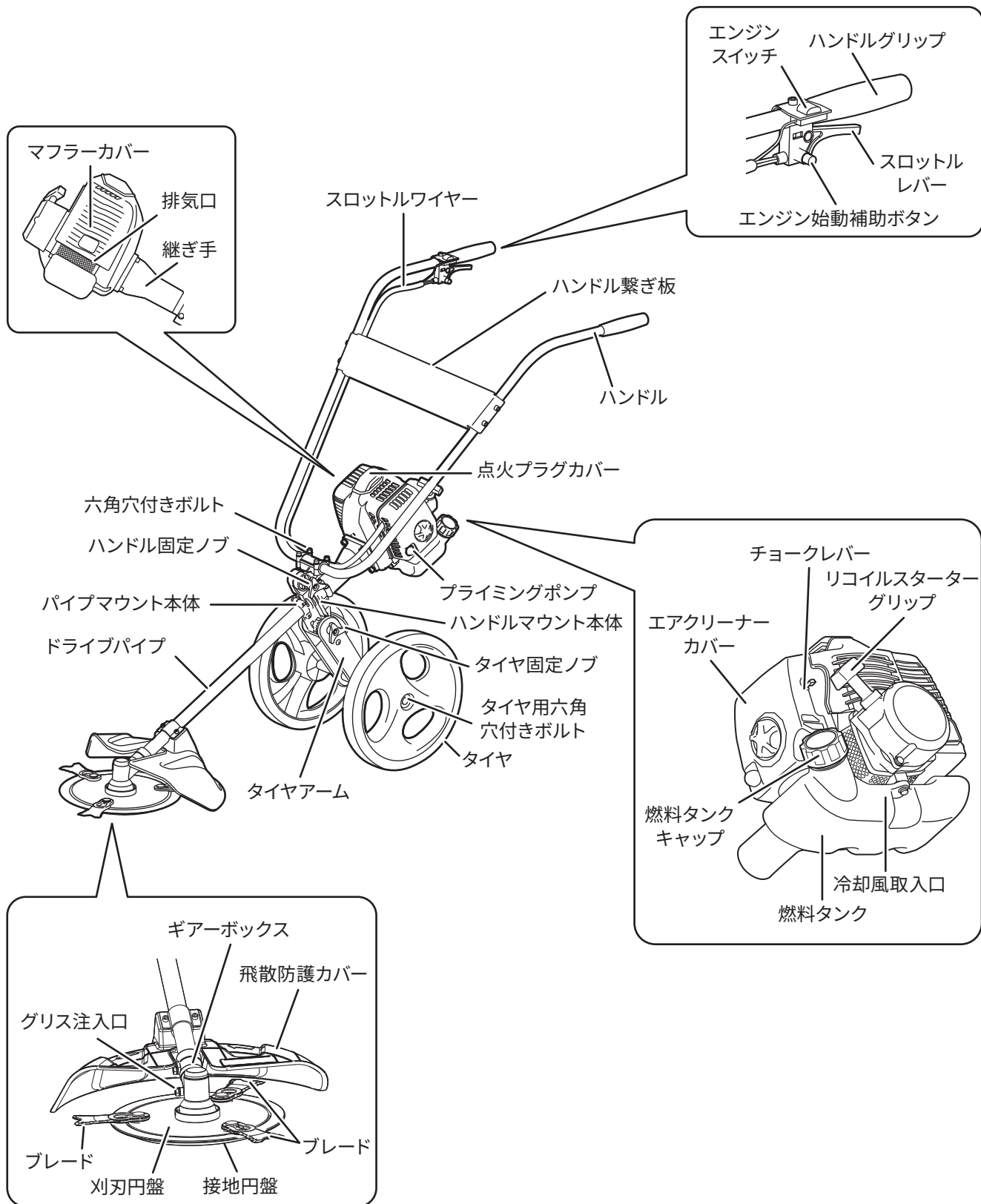
改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

乱丁、落丁はお取り換えします。

各部の名称と付属品

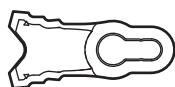
1. 各部の名称



各部の名称と付属品

2. 付属品

同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。



ブレード (6枚)



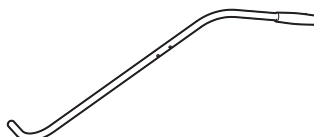
タイヤ (2個)



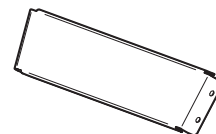
タイヤ用六角穴付きボルト
(M6×20 2本)



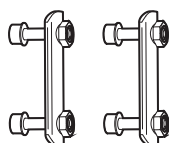
タイヤワッシャー (2枚)



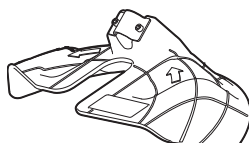
ハンドル (左) クミ



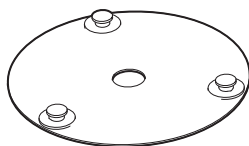
ハンドル繋ぎ板



ハンドル固定用ステー (2個) +
六角穴付きボルト (M5×30 4本)



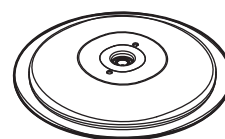
飛散防護カバー+飛散防護カバー取付金具+
六角穴付きボルト (M5×20 2本)



刈刃円盤



刃受金具



接地円盤



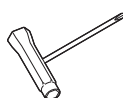
押さえ金具



刈刃固定ボルト



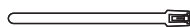
保護メガネ



プラグレンチ



六角レンチ



結束バンド

取扱説明書 (本誌)

はじめに

準備

使用方法




保守・点検

その他

安全上のご注意

使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。





■ お守りいただく内容を区分して説明しています。




 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ その他の表示




 ここがポイント！ 正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。

■ 本機に関すること










 危険
 次のときは本機を使用しない <ul style="list-style-type: none">・ 疲れているとき、身体が不調のとき・ 酒類や薬を飲んで正常な運転操作ができないとき・ 夜間や悪天候などで視界が悪いとき
 高温のエンジンやマフラーに可燃物を接触させない 枯れ草などが触れると火災の原因になります。
 建物およびほかの設置物から1 m以上離して置く

 換気や風通しの悪い所、排気ガスがこもる所（室内、車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど）で使用しない エンジンの排気ガス中には有害な物質が含まれており、滞留した排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。
 本機のまわりに危険物、燃えやすい物を置かない、近づけない 本機から出る排気ガスは熱くなるため、本機や接続機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故の原因になります。
 本機およびガソリン入り携行缶は直射日光の当たる所や高温となる所に放置しない ガソリンが気化して引火しやすい状態になる原因になります。

危険


-  本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりして使用しない
また、本機の上に物を載せて使用しない
事故やケガの原因になります。
-  平坦・水平で硬い所でエンジンを始動する
傾斜地でエンジンを始動しないでください。
-  燃料タンクやホースの破損、またはエンジンや燃料タンクからの燃料漏れがないか確認する
破損や燃料漏れがある場合は、直ちに本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。


警告


-  レバーを握った状態でひもなどで固定しない
緊急時にブレードの回転が止まらずケガの原因になります。
-  純正品、指定部品を使用する
事故やケガの原因になります。
-  付属品を正しく確実に取り付けてから作業を行う
-  本機の組み立てや付属品を取り付ける、または取り外すときは、必ずエンジン停止状態で行う
エンジンを運転したまま行くと事故の原因になります。
-  本機を車に積んだまま長時間悪路を走行しない
本機の破損や事故の原因になります。
-  作業に適した服装で作業する
長い髪は束ね、帽子やヘアカバーなどで覆う
巻き込まれケガの原因になります。
(22ページ「2. 服装について」参照)
-  からまった草を取り除くときは必ずエンジンを停止する
不用意にブレードが回転し、ケガの原因になります。
-  雨の中や水のかかる所では使用しない
ぬれた手で操作しない
雨や水でぬれている、またはぬれた手で本機を操作すると、故障や感電の原因になります。
-  本機の調子が悪いときや異常音が出たときは、直ちに使用を中止し、点検・修理を依頼する
思わぬケガや事故の原因となります。


安全上のご注意


警告


-  作業中は、本機を両手で確実に保持する
その際、ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにする
確実に保持していないと、ケガの原因になります。


-  爆発物や可燃性の液体、ガス、粉じんのある所で使用しない
本機から発生する火花が発火や爆発の原因になります。


-  作業中に円盤やブレードが石などの障害物に当たったときは、すぐに本機を停止させ異常がないか調べる
そのまま使用すると事故の原因になります。


-  次の所では使用しない
 - ・雨上がりなど足元が滑りやすい所
 - ・傾斜地、ハシゴや木に登るなどの不安定な所転倒してケガの原因になります。


-  取り扱い方法、作業のしかた、周りの状況など充分注意して慎重に作業する


-  本機の能力に合った負荷（切断対象、運転時間など）で作業する
無理な作業は事故の原因になります。
また、作業能率が悪くなります。


-  本機を雨の中やぬれた所、湿気の多い所に保管しない。


-  本機を使用しないときは、屋内に安全に保管する
子どもの手の届かない所、湿気が少なく鍵のかかる所に保管してください。
(27ページ「2. 保管」参照)


-  定期点検を行う
点検が不十分だと、事故の原因になります。
(28ページ「定期点検を行いましょう」参照)


-  修理技術者を除き、取扱説明書に記載の内容以外の分解や修理、改造は絶対に行わない
異常作動してケガの原因になります。


-  敷砂利など、飛散するおそれがあるが取り除けないものがあるときは地面から軽く浮かせて使用する
ブレードが接触したとき、砂利が飛散するなどケガの原因になります。

-  飛散防護カバーを所定の位置に確実に取り付けてから使用する
正しく取り付けないで使用すると、飛散物を防護できないまたは効果が下がり、ケガの原因になります。


-  作業中およびエンジン停止直後は回転部に手足や顔などを近づけない
エンジン停止直後も回転部がしばらく回っているため、ケガの原因になります。


-  点検や清掃時は必ずエンジンを停止する
誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチは「OFF」にし点火プラグキャップを取り外してください。


-  点検は平坦・水平な所で行う


-  エアクリーナーカバーなど部品類を外したまま使用しない
手や足をはさむ事故や、エンジン故障の原因になります。


注意


-  使用前にネジの緩みや欠落した部品、破損などがないか確認し、異常がある場合は使用を中止する
不完全な状態の本機を使用するとケガの原因になります。


-  無理な体勢で作業をしない
足元を安定させ、バランスを保つようにしてください。


-  屋外に長時間放置しない


-  本機を傾けたり、草の密度が濃い所で使用したりしない
エンジンがオーバーヒートする原因になります。


-  高温のエンジン各部やマフラー、ギアボックス、ブレード周辺をさわらないヤケドの原因になります。


-  固定ツメの山と谷は必ず合わせる
合っていないと振動などで不意にタイヤ部の固定が解除されてしまい、事故の原因になります。


-  指詰めに注意する
各部の固定が解除されるため、注意して作業を行ってください。


-  本機を天地逆にしたり、横に倒したりしない
燃料が漏れて事故の原因になります。


-  折りたたんだ状態で給油しない
給油後に本機を使用状態にすると、燃料タンクキャップから燃料が漏れるおそれがあります。


-  ブレードの取り付けは必ず次のことを守る
 - ・エンジン停止後に行う
 - ・ブレードは3枚取り付ける（3枚以外では使用しない）
 - ・同じ長さのブレードを使用する
 本機が異常振動し、事故の原因になります。また、ブレードの寿命が短くなるおそれがあります。


-  ブレードが回転している状態でハンドルグリップから手を放さない
ケガの原因になります。


-  スイッチに異常がないか点検する
スイッチで停止操作ができない場合は、使用せず修理をご依頼ください。そのまま使用すると、事故の原因になります。


-  使用前にネジの緩みや欠落した部品、破損などがないか確認し、異常がある場合は使用を中止する


-  使用前に必ずカバー内側のカッターの保護カバーを取り外す

-  エンジン始動後はリコイルスターターグリップを引かない
エンジンが破損する原因になります。

-  点検・整備はエンジンが冷えてから行う
エンジン停止直後は、エンジンや排気口、エンジンオイルの温度が高くなっているため、ヤケドのおそれがあります。

-  エレメントをねじらない
破れてエンジン不調の原因になります。





-  エレメントを取り付けずにエンジンを運転しない
エンジンの摩耗が早まります。

-  エンジン始動補助ボタンを使用したエンジンの始動は、ハンドルをしっかり握って行う
始動してすぐにブレードが回転するため、振り返りを防ぐためハンドルをしっかり握ってください。
(24ページ「1.1 振り返りについて」参照)


安全上のご注意

■ 燃料に関すること



危険

-  ガソリンを抜くとき、電動式ポンプは使用しない
引火の原因になります。
-  燃料タンクにガソリンが入っていて、エンジンが熱いときや気温が高いときは燃料タンクキャップを開けない
ガソリンが勢いよく噴出するおそれがあります。
-  エンジンが熱いときは給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱いときに給油すると引火のおそれがあります。
-  次のような所で給油する
 - ・ 焚き火などの火種がない
 - ・ 換気が良い
 - ・ 地面が平坦・水平で硬い

警告

-  エンジンオイルの交換は、エンジンが冷めるのを待つ
長時間使用後はエンジンオイルが熱いため、ヤケドの原因になります。

注意

-  ガソリンやエンジンオイルをこぼさない
こぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
-  ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える

組み立て／折りたたみ

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 組み立て

本機を、草刈りに適した「使用状態」にします。

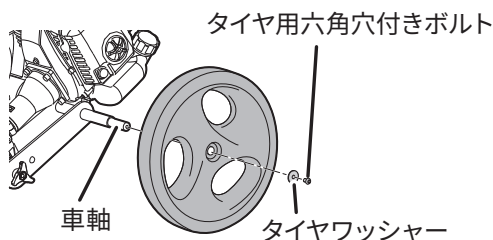
完成図



1.1 タイヤの取り付け

- 1) 本機を持ち上げ、タイヤを車軸にさし込み、タイヤ用六角穴付きボルトを軽く締め込む

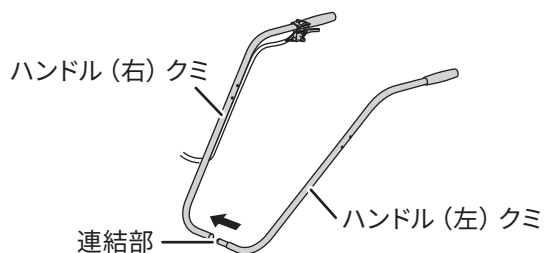
反対側も同様に取り付けます。



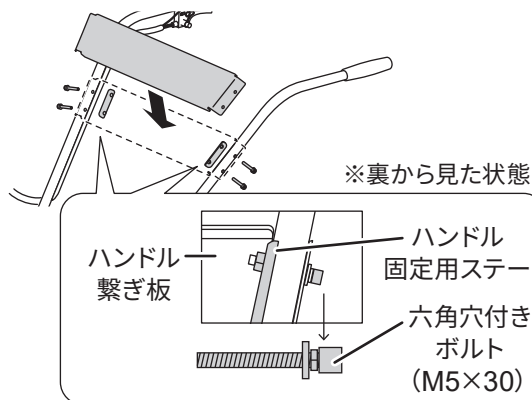
- 2) タイヤ用六角穴付きボルトを六角レンチでしっかり締め付ける

1.2 ハンドルの取り付け

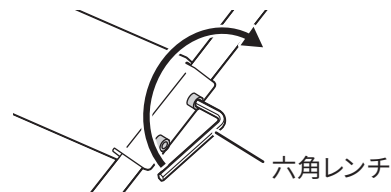
- 1) ハンドル（右）クミにハンドル（左）クミの連結部をさし込む



- 2) ハンドル繋ぎ板を載せ、六角穴付きボルト（4本）とハンドル固定用ステー（2個）で仮止めする

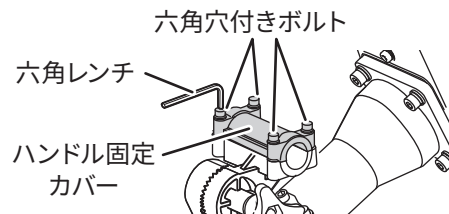


- 3) 六角穴付きボルトを六角レンチでしっかり締め付ける



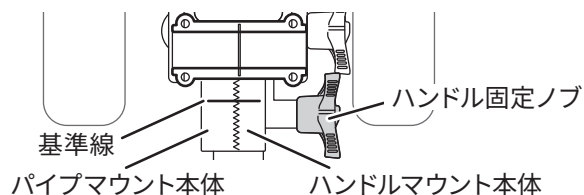
- 4) ハンドル固定カバーを外す

仮止めされている六角穴付きボルト（4本）を外してください。



- 5) パイプマウント本体とハンドルマウント本体の基準線が合っていることを確認する

合っていない場合は、ハンドル固定ノブを緩めて基準線を合わせます。



はじめに

準備

使用方法

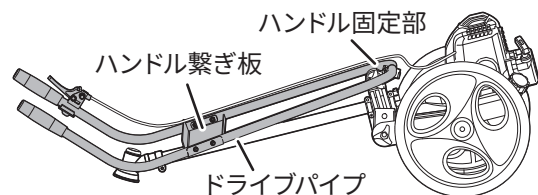
保守・点検

その他

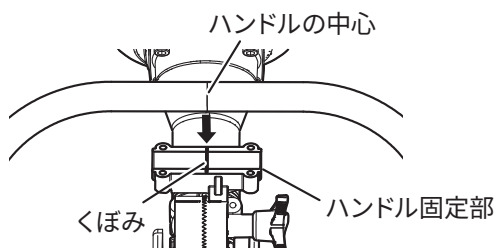
組み立て／折りたたみ

6) ハンドル固定部にハンドルを乗せる

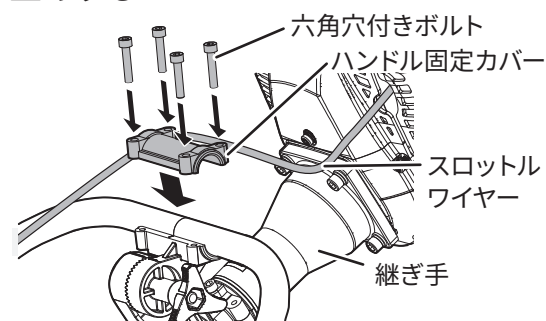
ハンドル繋ぎ板をドライブパイプに乗せるように置いてください。



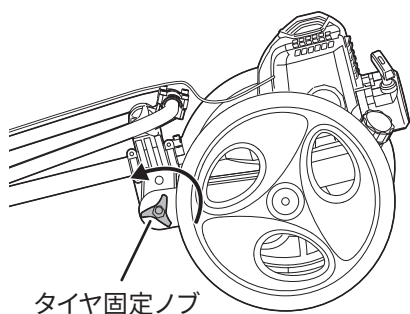
7) ハンドル固定部中心のくぼみとハンドルの中心を合わせる



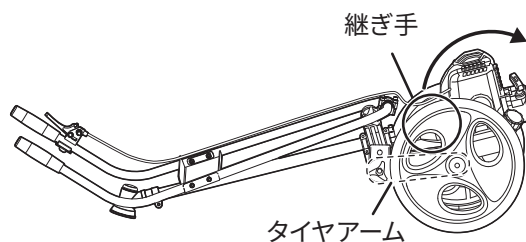
8) スロットルワイヤーが継ぎ手の上側に来ていることを確認し、ハンドル固定カバーをかぶせ、六角穴付きボルト（4本）で仮止めする



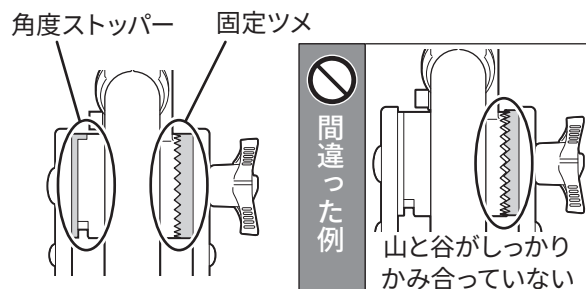
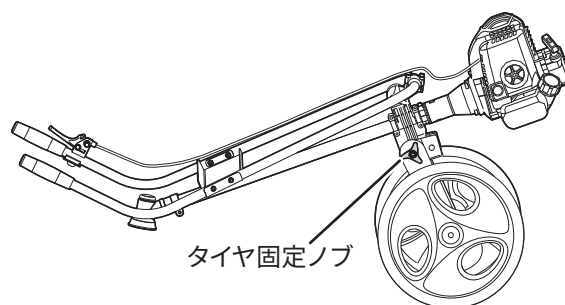
9) タイヤ固定ノブを軽く緩める



10) 継ぎ手部分を持って、本機を持ち上げるようにしてタイヤアームを回転させる



11) タイヤアームの角度ストッパーが当たる所まで回転させ、固定ツメの山と谷がぴったりかみ合わせた状態でタイヤ固定ノブをしっかりと締め付ける

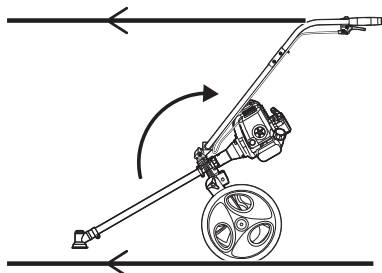


ここがポイント！

- タイヤアームの角度ストッパーが当たる所まで本機を持ち上げた後、エンジンを少し下げながら締め付けると調整しやすくなります。

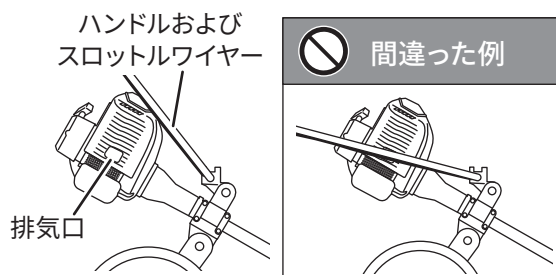
組み立て／折りたたみ

12) ハンドルを起し、ハンドルグリップが地面に対して平行になる角度（標準角度）に調整する



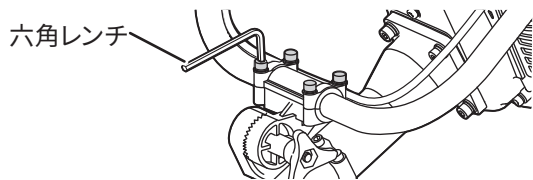
ここがポイント！

- 標準角度よりお客様の使いやすい角度に調整できますが、排気口からの排気がハンドルおよびスロットルワイヤーに当たらないよう、ハンドルを下げ過ぎないでください。



13) ハンドル固定カバーの六角穴付きボルト（4本）をしっかり締め付ける

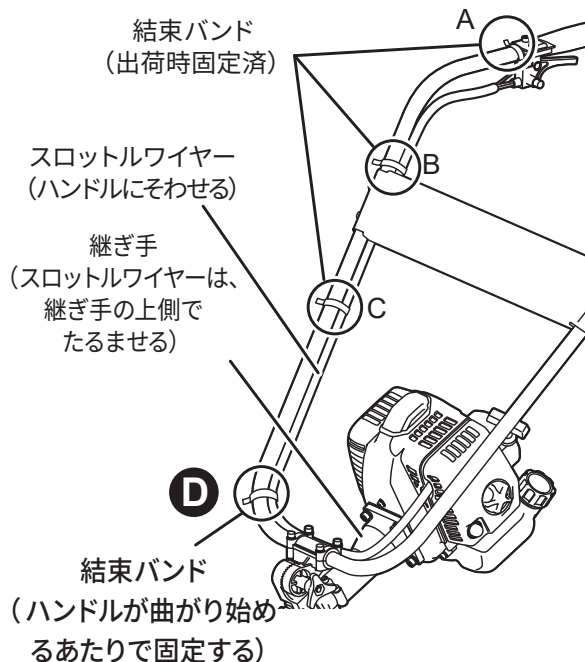
締め付けが不十分だと作業中に不用意にハンドルが動き、危険です。



ここがポイント！

- ハンドルにガタつきがある場合は、六角穴付きボルト（4本）を増し締めしてください。しっかりと締め付けられていることを確認してください。

14) ①の場所に付属の結束バンドを使用してスロットルワイヤーをハンドルに固定する
結束バンドA、B、Cは、出荷時に固定済みです。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

組み立て／折りたたみ

1.3 飛散防護カバーの取り付け

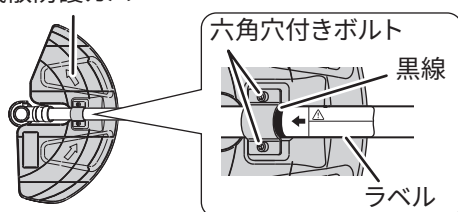
飛散防護カバー（以下カバー）は作業者に異物が飛散することを防ぎます。

地面と水平に取り付けるために、平坦・水平な場所で作業してください。

1) 本体貼付ラベルの黒線に合わせ、地面に対して平行にカバーを取り付ける

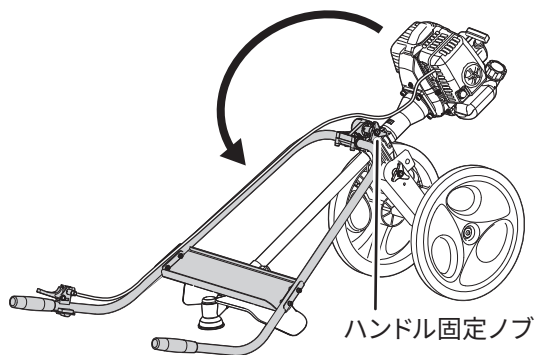
六角穴付きボルト（2本）を六角レンチでしっかり締め付けてください。

飛散防護カバー

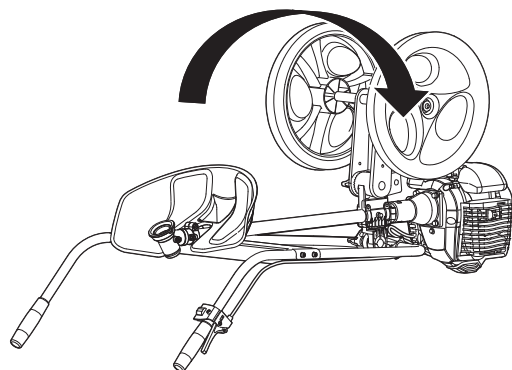


1.4 刈刃円盤の取り付け

1) ハンドル固定ノブを緩め、ハンドルを前方に倒しハンドル固定ノブを締め込む

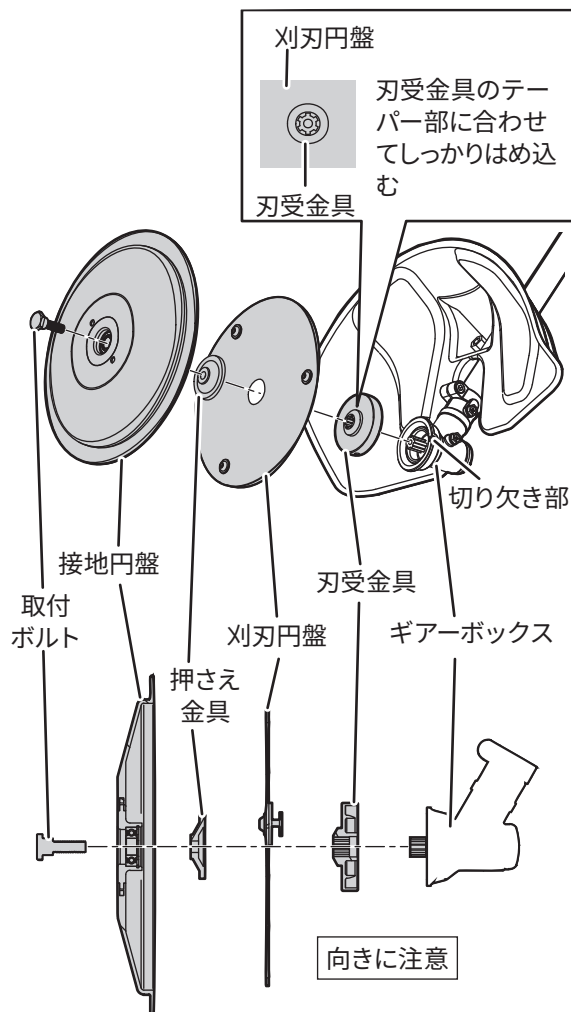


2) 本機をゆっくりとひっくり返す



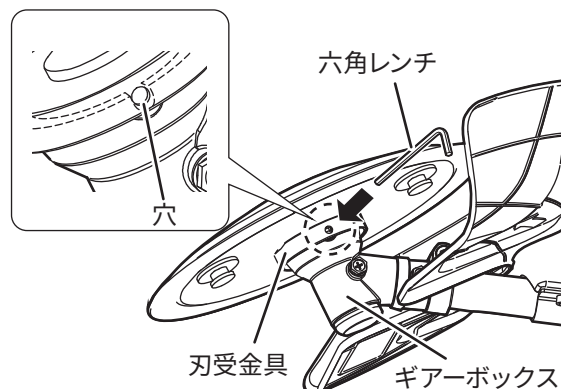
3) 仮止めする

刃受金具が回らないように指で押さえながら、手で取付ボルトを反時計回りに回してください。



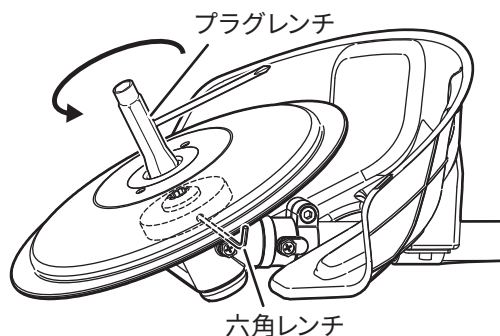
4) 手で取付ボルトが回せなくなったら、ギアボックスと刃受金具の穴を合わせて六角レンチをさし込む

刃受金具が回らないように固定されます。

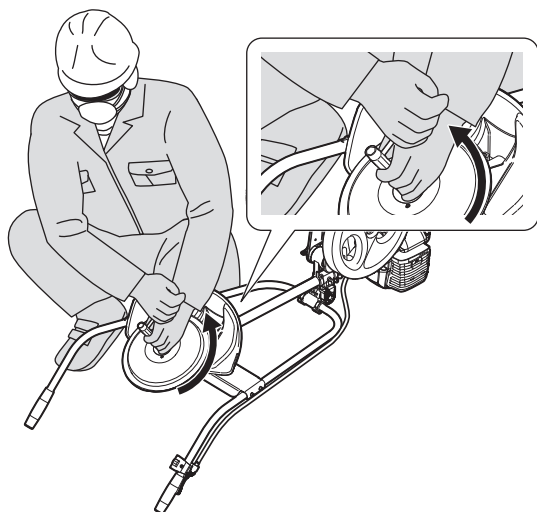


組み立て／折りたたみ

- 5) 六角レンチをさし込んだまま、付属のプラグレンチで取付ボルトを反時計回りに回してしっかり締め付ける

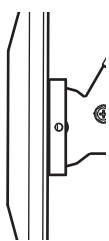


- 図の姿勢でしっかり締めると、必要な締め付けトルクで締め付けることができます。
- 強く締め付けられないときは、締め付けられる人に締め付けを依頼してください。



ここがポイント！

- 取付ボルト（左ネジ）を締め付けているときに、刃受金具のテーパ部と刈刃円盤の取付穴がズれることがありますので注意してください。



- 6) 六角レンチとプラグレンチを取り外し、刈刃円盤を軽く回しガタつきがないか確認する

刈刃円盤を正しく取り付けられていないと異常振動し、事故やケガの原因になります。ガタつきがある場合は、もう一度刈刃円盤を取り付け直してください

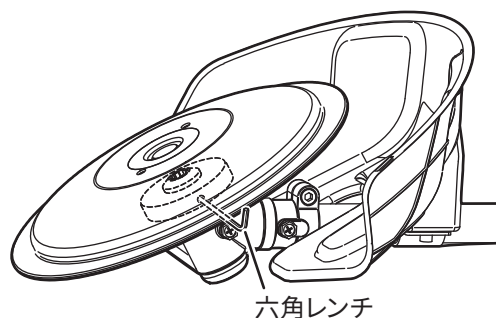
- 7) 取り付けが完了したら六角レンチとプラグレンチを保管する

1.5 刈刃円盤の取り外し

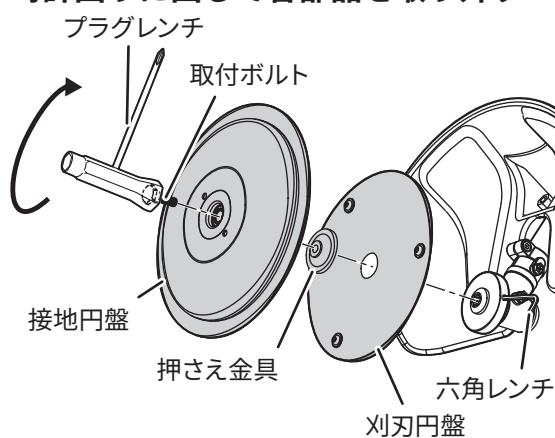
- 1) 本機をひっくり返す

(12ページ「1.4 刈刃円盤の取り付け」手順1)～2)参照

- 2) 六角レンチをギアボックスと刃受金具の穴を合わせてさし込む



- 3) 取付ボルト（左ネジ）をプラグレンチで時計回りに回して各部品を取り外す



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

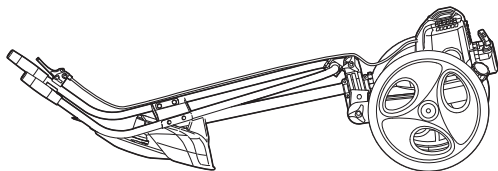
その他

組み立て／折りたたみ

2. 折りたたみ

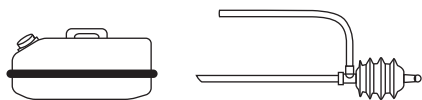
本機を保管・運搬などに適した「折りたたみ状態」にします。

完成図



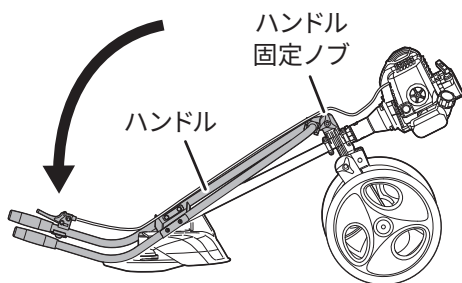
- 1) エンジン停止直後は、エンジンが熱くなっているため冷えるまで待つ
燃料タンクに燃料が入っている場合、手順2)と3)を行う

- 2) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



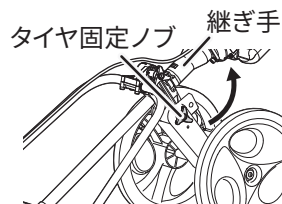
- 3) 燃料タンクキャップを開け、手順2)で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を移す

- 4) ハンドル固定ノブを緩め、パイプマウント本体とハンドルマウント本体のかみ合わせを外し、ハンドルを折りたたむ

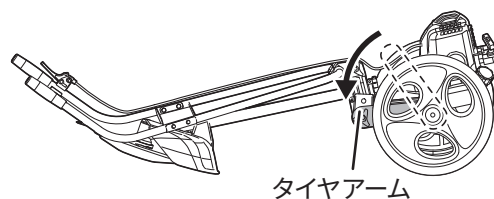


- 5) 固定ツメの山と谷を合わせて、ハンドル固定ノブを締め付ける

- 6) 継ぎ手を持ちながらタイヤ固定ノブを緩めて折りたたむ



本機をゆっくりと降ろすようにしてタイヤアームを角度ストッパーで止まる所まで回転させください。



- 7) タイヤ固定ノブを締め付けてタイヤアームを固定する。

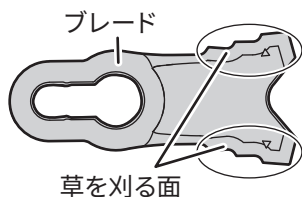
タイヤアームが不用意に動くことを防ぎます。

ブレード

作業前に必ずエンジンを停止し、燃料タンクキャップがしっかり閉まっていることを確認してください。

ここがポイント！

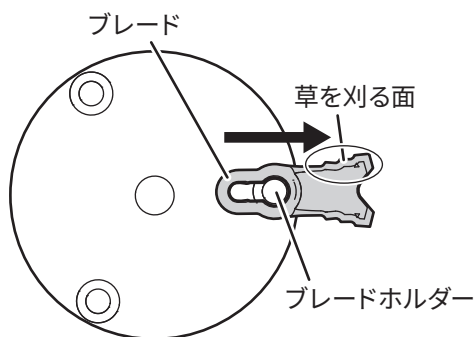
- ブレードは、裏表を変えることで、2面が使えます。



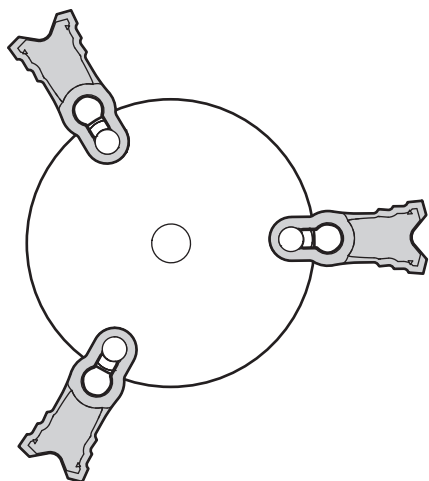
- ブレードが欠けたりヒビが入った場合は、使用せずに新品に交換してください。(32ページ「2. ブレードが削れてきたら」参照)

1. 取り付け

- 1) ブレードの中心部を、ブレードホルダーの上からしっかりとさし込み、ブレードを外側にスライドさせる

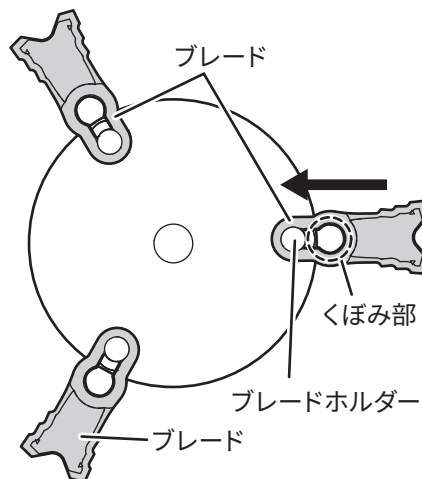


- 2) 他の2箇所も同様に取り付ける



2. 取り外し

- 1) ブレードの中心にあるくぼみ部を、ブレードホルダーまでスライドさせ、ブレードを取り外す



- 2) 他の2箇所も同様に取り外す

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

給油

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。
本機には「混合ガソリン」が必要です。必ず給油してからご使用ください。

次の混合ガソリンを用意してください

使用燃料	2サイクルオイル混合ガソリン	
	混合比	50 (ガソリン) : 1 (オイル)
	ガソリン	レギュラーガソリン
	オイル	2サイクル用エンジンオイル JASO 規格FCまたはFD 級
燃料タンク容量	約0.6 L	

- 混合済みの市販品をご使用になるとき
農機店、ホームセンター、ガソリンスタンドなどでご購入ください。
- ご自身で混合されるとき
大量に混合せず、一度の作業に必要な量だけ準備してください。燃料を長期（1か月以上）保管すると変質しエンジン始動不良や故障の原因になります。

混合表 (50:1 《2%》)

ガソリン	1 L	2 L	3 L	4 L	5 L
オイル	20 mL	40 mL	60 mL	80 mL	100 mL

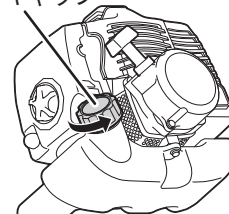


ここがポイント！

- 混合比や使用オイルは必ず種類を守ってください。エンジン故障の原因になります。
- 古い燃料は使用しないでください。燃料携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因になります。
- ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した燃料携行缶を使用してください。灯油かん（通称：ポリ缶）やペットボトルに保管しないでください。ガソリン内に成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

- 1) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 2) 本機を使用状態にする
(9ページ「1. 組み立て」参照)
- 3) 本機が不意に動かないよう固定する
- 4) 燃料タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内と外部の気圧差を無くす

燃料タンクキャップ



- 5) 燃料タンクキャップを外す
- 6) 燃料をゆっくり、給油限界目安まで給油する

入れ過ぎると、燃料給油キャップからにじみ出る原因になります。



給油限界目安

口元 (口元から約1 cm下)



ここがポイント！

- 燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないようにしてください

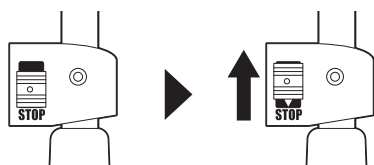
- 7) 燃料タンクキャップを取り付け、確実に締め付ける

エンジンの始動／停止

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

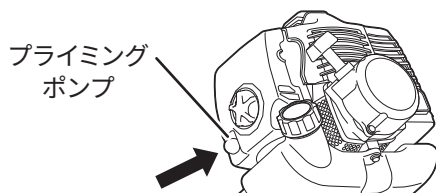
1. 始動

1) ハンドル付近にある、エンジンスイッチをスライドさせる



2) プライミングポンプを約10回指で押す

エンジンの始動系統に燃料が供給されます。

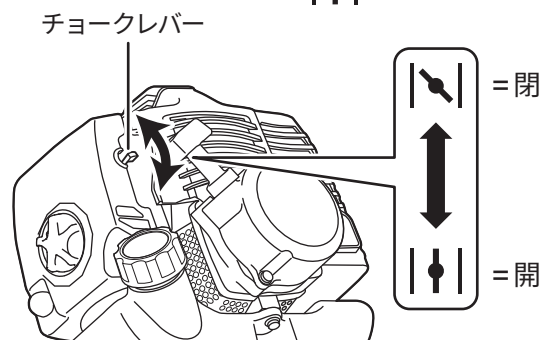


ここがポイント！

- 本エンジンはプライミングポンプ操作を行ったとき、余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。プライミングポンプ操作を多く行っても吸い込み過ぎにはなりません。むしろ少ない場合には始動不良になることがありますので、充分行ってください。
- エンジンの一時停止直後はプライミングポンプを押す必要はありません。

3) チョークレバーの操作1

- 寒いときや、エンジンが冷えているとき：
チョークレバーを上（閉）にする
- 暑いときや、エンジンの一時停止直後などエンジンが暖まっているとき：
チョークレバーを下（開）にする



4) 次のことに注意しながら、リコイルスターターグリップ（以下「リコイル」）を数回引く

- リコイルは図のように、軽い力で一度に長くロープを引き出す。



- ブレードに足や物が触れないよう十分に距離を取る。
- 本機のハンドル繋ぎ板をしっかりと押さえて、リコイルを引く。
(24ページ「1.1 振り返りについて」参照)

はじめに

準備



使用方法

保守・点検

その他

エンジンの始動／停止

5) チョークレバーの操作2 [初爆音の後]

- 初爆音※がしてエンジンが始動した場合：
そのまま（約10秒）様子を見て、エンジンが止まらなければ、チョークレバーを下（開 ）にする
- エンジンが始動しない、または数秒で停止する場合：
チョークレバーを上（閉 ）にして、再度リコイルを引く
※ 次ページ参照

6) リコイルをゆっくりと元に戻す



ここがポイント！

エンジン始動後、本機が不用意に動くと危険なので、ハンドル等を握り動かさないように抑えてください。

7) 約1分間、暖気運転をする

スロットルレバーは握らない（エンジンの低速運転）でください。

暖気運転を行わずにスロットルレバーを深く握る（エンジンの高速運転）と、不意にエンジンが停止することがあります。

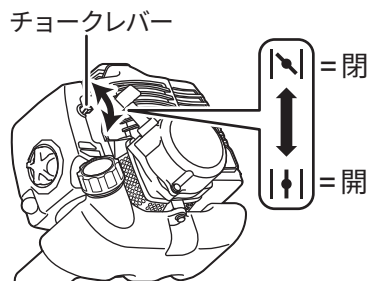
上記の手順でエンジンが始動できない場合はエンジン始動補助ボタンを使用してエンジンを始動してください。

（20ページ「2. エンジン始動補助ボタン」参照）

エンジンの始動／停止

ここがポイント！

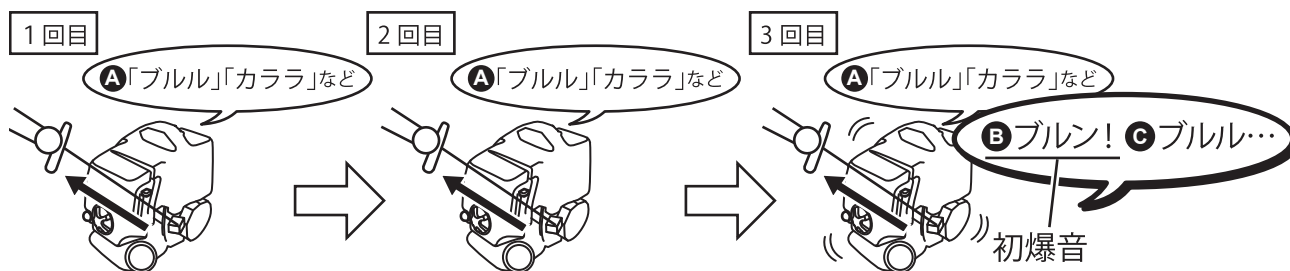
エンジンを上手に始動するには、エンジンの「初爆音」を聞いてチョークレバーの操作をしてください。



■ エンジンの音

リコイルを引くと「**A** エンジン内部が動く音」がします。その音に加えて、エンジンが始動しそうになると、リコイルを引いたときに重い「**B** 初爆音」が鳴ります。「**B** 初爆音」を聞き、「エンジンが始動しそうな感覚」をつかむことが上手にエンジンを始動するポイントです。なおエンジンが始動すると、「**C** 爆発音」が鳴り続けます。

例：リコイルを引いて3回目で爆発音がして、エンジンが始動したときの音



■ チョークレバー（以下「チョーク」）の操作

状態によって次をお試ください。

状態	対処	解説
リコイルを何回も(5回程度)引いても B 初爆音がしない、または聞き逃した	チョークの位置を逆(上にしていたら下)にしてリコイルを引く	<ul style="list-style-type: none"> チョークを上(閉 ↘) にしていた場合: チョークを上にしなくてもエンジンが始動する状態(エンジンが適温)です チョークを下(開 ↓) にしていた場合: エンジン内部の温度が低いためガソリン濃度が足りず、始動できない状態です
<p>例：チョークが上(閉 ↘) で1回目でB 初爆音が鳴ったが聞き逃した。その後チョークを操作し6回目で始動</p> <p>A にまぎれた B 初爆音を聞き逃したため、何回もリコイルを引き続けることに……</p> <p>おかしいと思ったときはチョークの位置を逆にしてみましょう。</p>		
チョークの位置が上(閉 ↘) で、初爆音がしたがエンジンが始動しない	チョークを下(開 ↓) にしてリコイルを引く	B 初爆音がした後チョークを上(閉 ↘) のままりコイルを引き続けても、ガソリン濃度が濃すぎてエンジンが始動できなくなります。(点火プラグの「かぶり」)

「チョーク」とは：

寒いとき・エンジンが冷えているときに、ガソリンエンジン内部へのガソリンの濃度を手で調整するための装置

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

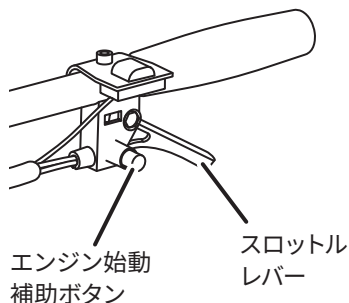
その他

エンジンの始動／停止

2. エンジン始動補助ボタン

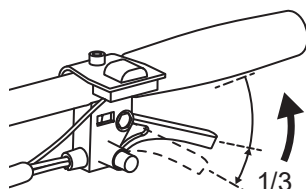
17ページ「1. 始動」の手順でエンジンが始動できない場合は「エンジン始動補助ボタン」を使用してエンジンを始動してください。

- 1) スロットルレバーを深く握りながら、エンジン始動補助ボタンを押し込む



- 2) エンジン始動補助ボタンを押したまま、スロットルレバーを放す

スロットルレバーが1/3程度の位置で固定されていることを確認してください。



- 3) エンジン始動補助ボタンから手を放す
- 4) 「1. 始動」手順1)～6)を行う（17～18ページ参照）
- 5) エンジンが始動したらスロットルレバーをゆっくり深く握る
エンジン始動補助ボタンが自動的に解除されます。
- 6) 「1. 始動」手順7)を行う（18ページ参照）

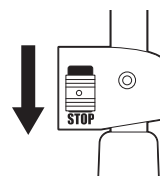
ここがポイント！

- エンジン始動補助ボタンを使用したエンジンの始動は、ハンドルをしっかり握って行ってください。
始動してすぐに刈刃円盤が回転するため、振り返りが起きないようにハンドルをしっかり握ってください
(24ページ「1.1 振り返りについて」参照)

3. 停止

3.1 緊急停止

- 1) エンジンスイッチを「STOP」にする

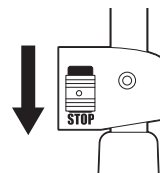


ここがポイント！

- 緊急停止する場合のみ行ってください。
通常は次の「エンジンの通常停止」の手順で停止してください。

3.2 通常停止

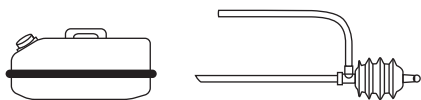
- 1) 平坦・水平で硬い場所に本機を移動させる
- 2) ハンドルグリップに親指をかけ、他の指とともにグリップを囲むように握る
- 3) スロットルレバーを完全に放す
- 4) 刈刃円盤が完全に停止したら、エンジンスイッチを「STOP」にする



運搬

本機を車両などで運搬する場合には、次のことを必ず守ってください。

- 1) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 2) 燃料タンクに燃料が残っている場合、手順3)と4)を行う
- 3) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



- 4) 燃料タンクキャップを開け、手順3)で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を移す
- 5) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定する

作業前点検

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 作業前点検

■ 草刈機

部位	項目
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
	割れ、欠け、変形、摩耗、損傷などの点検
刈刃円盤本体	取付ボルトの緩み点検
ブレード	正しい取り付けの点検
飛散防護カバー	取り付け位置、角度の点検
タイヤアームの固定ノブ	締め付けの点検
ハンドル	取り付け角度の点検
ギアボックス	周辺の清掃

■ エンジン

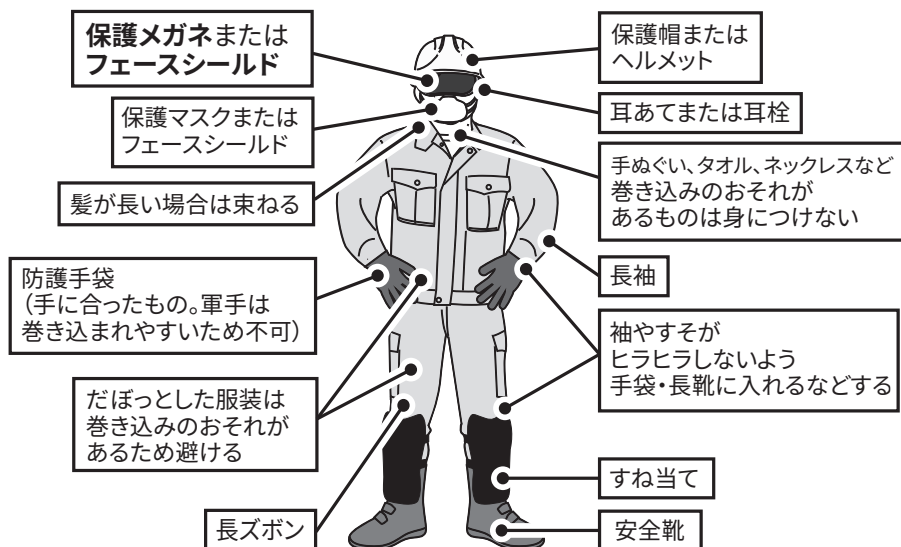
部位	項目
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
燃料配管部	点検
エアクリーナー	点検
冷却風取入口、冷却フィン、マフラー周辺	点検・清掃

詳しくは28ページ「定期点検を行いましょう」参照

2. 服装について

作業時は石やゴミを巻き上げる、本機の回転部に巻き込まれるなどしてケガをするおそれがあります。次のような安全な服装で作業を行ってください。

※手袋や帽子は付属していません。別途ご用意ください。

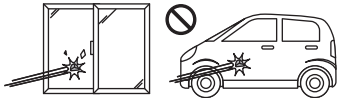


草を刈る

1. 作業時の確認事項

❗ 傷をつけたくない物が近くにないか確認する

飛散した障害物でガラスが割れたり、傷がつくおそれがありますので、板などで養生するか、移動させてください。



ガラス窓
車など

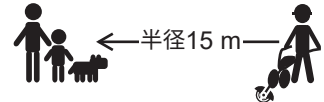
❗ 足元や周囲に障害物が無いことを確認する

作業場所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に充分確認してください。埋設物があると本機が触れ、感電や漏電・ガス漏れのおそれがあり、事故の原因になります。

埋設物

❗ 半径15 m以内に人や動物がいないことを確認する

歩道など通路の場所を確認してください。



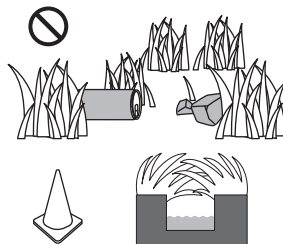
❗ エンジンが過負荷になっていないか確認する

本機を傾けてブレードが地面と接触したり、草の密度の濃い場所で作業したりすると過負荷が発生してエンジン回転数が低下します。

エンジン回転数が低下した場合は、ブレードを草から離して、エンジン回転数が高回転に復帰してから作業を再開してください。

❗ 小石や空き缶など障害物、地面の凸凹が草に隠れていないか確認する

飛散すると危険ですので、取り除いてください。



❗ ハチの巣やヘビが隠れていないか確認する

付近の高所や草むらの中を静かに下見をしてください。

作業音はハチに刺激を与え、ハチの出す警告音をかき消します。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

草を刈る

スロットルレバー

- 作業中は、レバーは深く握るか、全く握らないかのどちらかにしてください。
途中までレバーを握った状態（≒半クラッチ）で刈刃円盤をゆっくり長時間回し続けると、本機が故障するおそれがあります。

ハンドルグリップ

- 刈刃円盤が回転している間は絶対に手を放さないください。
「1.1 振り返りについて」参照

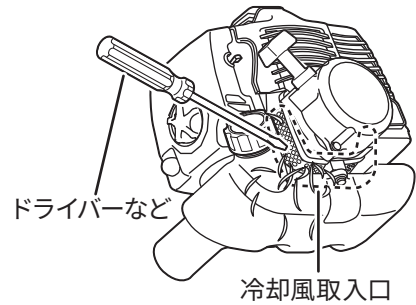
ブレード

- ブレードの切れ味が悪くなったら、32ページ「2. ブレードが削れてきたら」を参照してください。ブレードの取り付け方向を変えることで切れ味が復活します。

刈刃円盤

- 軽く地面に置くようにして滑らせてください。（強く地面に押し付けると、摩耗が早まります）
- 地面を掘り起こすような使い方はしないでください。
- 地面と平行にしてください。

冷却風取入口



- ときどきエンジンを停止し、ドライバーなどで付いた草やゴミを取り除いてください。取入口がふさがるとエンジンに冷却用の空気が入られず、故障（焼き付き）します。焼き付きは保証対象外です。
- 草やゴミを取り除くときはドライバーなどを使用してください。水をかけるとエンジンが故障するおそれがあります。

燃料タンク

- 燃料タンクが空になったら、16ページ「給油」を参照して燃料を補給してください。

1.1 振り返りについて

本機が押さえられていない状態になると、本機がタイヤを中心に回転する「振り返り」が発生します。



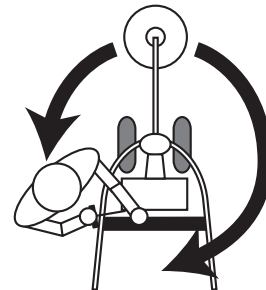
ここがポイント！

- 振り返りが発生しないように、ハンドルから手を放す前に刈刃円盤が完全に停止していることを確認してください。



ここがポイント！

- エンジン始動時、万が一振り返りが発生しても危険性を最小限にするために、ハンドル繋ぎ板をしっかりと押さえてください。



草を刈る

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」を読み、22ページ「作業前点検」の操作および点検を行ってください。

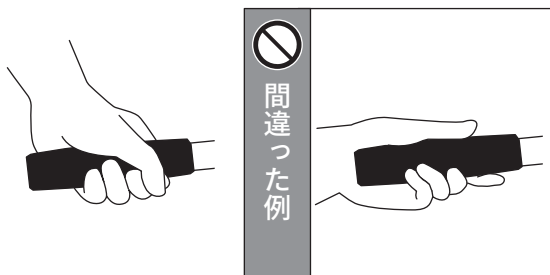
2. 草を刈る

1) エンジンを始動する

(17ページ「エンジンの始動/停止」参照)

2) 本機のエンジン側に立つ

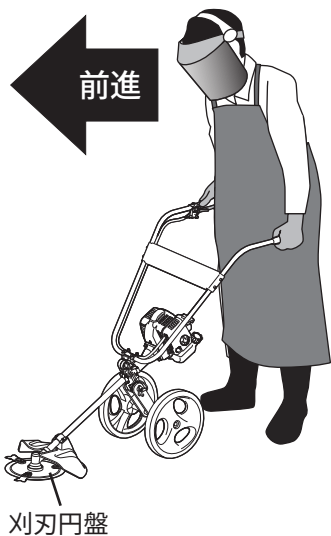
3) ハンドルグリップに親指をかけ、他の指とともにグリップを囲むように握る



4) スロットルレバーをゆっくり深く握って、刈刃円盤を回転させる

5) 刈刃円盤を地面上で滑らせるようにしながら前進し、草を刈る

作業を一時中断するときは、必ず本機を平坦・水平な場所に移動してエンジンを停止してください。

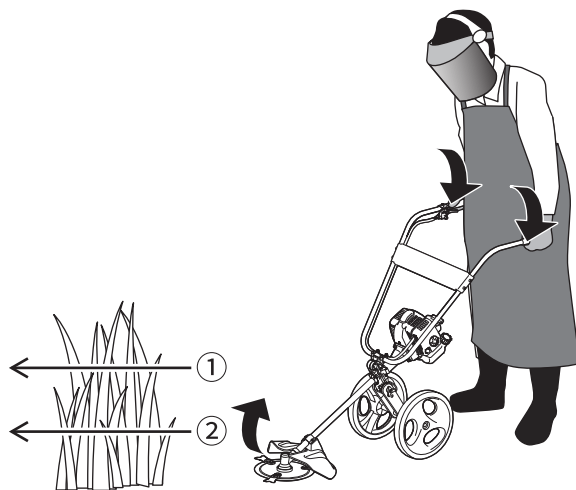


ここがポイント！

- 刈刃円盤を地面に押し付けないように作業をしてください。過度に押し付けるとエンジンに負荷がかかり焼きつくなど、故障のおそれがあります。

■ 高い草の刈り方

- あらかじめ背の高い草だけはさみなどで短く刈ります。
- 刈刃円盤が地面から浮くように本機を軽く傾けて草を上から数回に分けて刈ってください。



6) 作業が終わったら、エンジンを停止する

(20ページ「3. 停止」参照)

お手入れと保管

1. お手入れ

1) 雨などがかからず、平坦・水平で硬い場所に置く

2) 本機が冷めるまで待つ

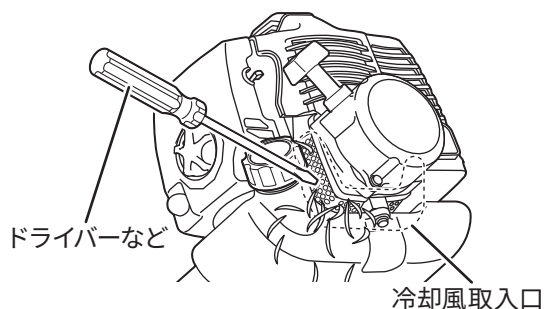
3) 各部に付いた草やゴミを取り除き清掃する

次の場所は特にきれいに清掃してください
本機の故障を防ぎます。

1. エンジン周り

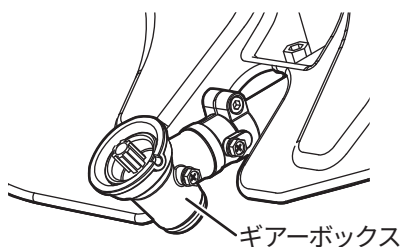
■ 冷却風取入口

ドライバーなど先の細い工具を用いて冷却風取入口のカバーに付着した草やゴミをかき出すように取り除いてください。

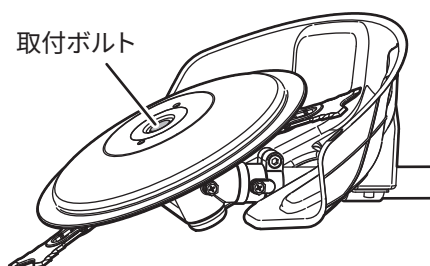


2. 刈刃円盤周り

■ ギアボックス (周囲および刃受金具を外した所)

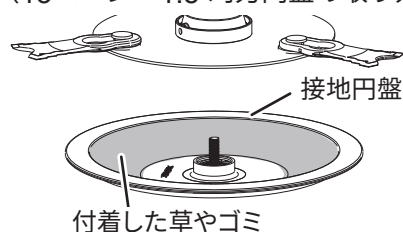


■ 刈刃円盤 取付ボルトとその周囲

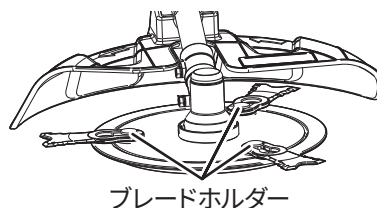


■ 接地円盤

接地円盤を取り外し、刈刃円盤との間に付着した草やゴミを取り除いてください。
(13ページ「1.5 刈刃円盤の取り外し」参照)



■ ブレードホルダーとその周囲



ここがポイント！

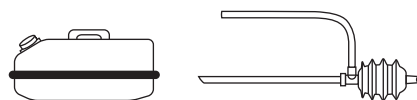
- 清掃するときは布などを使用してください。水をかけるとエンジンが故障するおそれがあります。また、土をかき出す際に棒などで強く押さないでください。
- ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 冷却風取入口がふさがるとエンジンが故障します。

4) 作業後の点検を行う

(28ページ表中「作業前後」参照)

燃料タンクに燃料が残っている場合、手順5)と6)を行う

5) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



6) 燃料タンクキャップを開け、手順5)で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を入れ替える

お手入れと保管

通常の使用後は「保管」を、次回の使用が1か月以降になる場合は「長期保管」を行ってください。

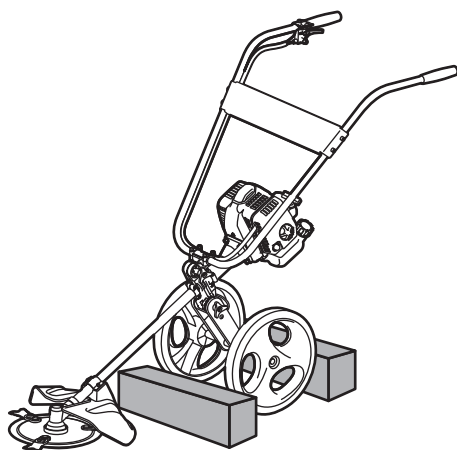
2. 保管

1) 「お手入れ」をすべて行う

(26ページ「1. お手入れ」参照)

2) 本機が移動しないように固定する

本機にタイヤを固定する機能はありません。



3) 次のような場所を避けて保管する

- 乳幼児、子どもの手の届く所や簡単に持ち出せる所
- 熱源のそばや、真夏の閉め切った自動車内など高温になる所
- 湿気の多い所
- 湿度や温度の急変する所
- 直射日光の当たる所
- 揮発性物質の置いてある所

3. 長期保管

1) 「お手入れ」をすべて行う

(26ページ「1. お手入れ」参照)

2) 換気が良く、他の建物などから1 m以上離れた場所で「始動」手順1)～6)を行う

(17～18ページ参照)

3) エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ (約30秒～1分)

4) プライミングポンプを押す

エンジンのフューエルリターンパイプから燃料タンク内に燃料が出なくなるまで行ってください。

5) エンジンが冷えるまで待つ

6) 点火プラグを外し、プラグ孔から新しいエンジンオイルを3～5 mL注入する

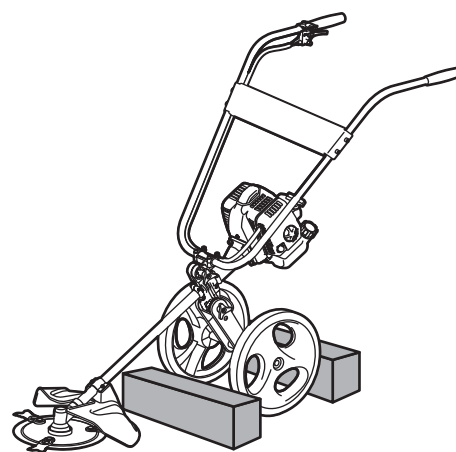
7) リコイルを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付ける

8) リコイルを引き、重くなった状態 (圧縮状態) にする

9) こぼれた燃料、水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する

10) 本機が移動しないように固定する

本機にタイヤを固定する機能はありません。



11) 本機にカバーを掛け、保管する

(保管の手順3)「次のような場所を避けて保管する」参照)

定期点検を行いましょ

本機を安全に、また快適にご使用いただくために定期点検を行ってください。
点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検時期は表示期間または運転時間で実施してください。
- 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

■ 草刈機

対象部位	点検項目	時期 ^{※1}		
		作業中	作業前後	25時間 運転ごと
各部	ネジ、ナット類の緩み点検		●	
	割れ、欠け、変形、摩耗、 損傷などの点検		●	
刈刃円盤本体	取付ボルトの緩み点検（12ページ）	●	●	
ブレード	正しい取り付けの点検（15ページ）		●	
飛散防護カバー	取り付け位置、角度の点検（12ページ）		●	
タイヤアームの固定ノブ	締め付けの点検（10ページ）		●	
ハンドル	取り付け角度の点検（9～10ページ）		●	
ギアボックス	周辺の清掃（26ページ）		●	
	グリスの補給（33ページ）			● ^{※2}

■ エンジン

対象部位	点検項目	時期 ^{※1}				
		作業中	作業前後	3か月ごと または 50時間 運転ごと	6か月ごと または 100時間 運転ごと	1年経過 ごと
各部	ネジ、ナット類の緩み点検		●			
燃料配管部	点検	●	●			
	交換					● ^{※2}
エアクリーナー	点検（33ページ）		●			
	交換（33ページ）				● ^{※3}	
冷却風取入口、冷却 フィン、マフラー周 辺	点検・清掃（26ページ）	●	●			
点火プラグ	点検・清掃（32ページ）			●		
燃料フィルター	点検・清掃（32ページ）			●		
マフラー	点検・清掃			●		
	交換					● ^{※2}

※1 運転時間または期間のどちらか早く達した方で実施してください。点検間隔がそれ以前の間隔を超え次の間隔に達している場合は、それまでに含まれている項目は同時に実施してください。

※2 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※3 エアクリーナーの交換は、エレメントのみ交換を行ってください。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

お客様で分解・修理は絶対にしないでください。

点検・修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

■ エンジン

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
リコイルが引けない、または重い	エンジン内のサビ付き	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	エンジンの焼き付き		
エンジンが始動しない	チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	17
	燃料タンクに燃料が入っていない	燃料を給油する	16
	古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	16、27
	指定以外の燃料類を使用している		
	燃料フィルターにゴミが詰まっている	燃料フィルターを清掃する	32
	燃料フィルターが燃料の油面より上にある	燃料フィルターを燃料タンクの底に押し込む	
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	33
	点火プラグのかぶりなど	点火プラグの清掃・点検・交換	32
	マフラーの排気口にカーボンが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	キャブレターが詰まっている		
エンジンが数分動いた後止まる 始動するが、回転が上がり、出力が充分でない	チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	17
	古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	16、27
	指定以外の燃料類を使用している		
	燃料の混合比が正しくない	正しい混合比の燃料に入れ替える	16
	燃料フィルターにゴミが詰まっている	燃料フィルターを清掃する	32
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	33
	冷却風取入口などエンジンの各部にゴミが詰まっている	ゴミを取り除く	24
	マフラーの排気口にカーボンが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
スロットルワイヤーの遊びが大き過ぎる			
運転中、回転が次第に下がる	指定以外の燃料類を使用している	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	16、27
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	33

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

■ 本機






症状	考えられる原因	処置	参照ページ
異常な振動がある、 刈刃円盤が外れる	刈刃円盤の取付ボルトが緩んでいる	増し締めする	13
	刈刃円盤が変形・破損している	刈刃円盤を新品に交換する	—
	刈刃円盤が偏芯取り付けされている (中心がズレている)	刈刃円盤を取り付け直す	12
	3枚のブレードの種類が違う	同じブレードを取り付ける	15
	ブレードを3枚以外の枚数で取り付けている (取り付けしていない、または1枚、2枚のとき)	必ず3枚取り付ける	
刈刃円盤の回転が止まる、または次第にゆっくりになる	刈刃円盤周辺に草やゴミが巻き付いた	エンジンを停止し、草やゴミを取り除く	26

整備

お客様が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

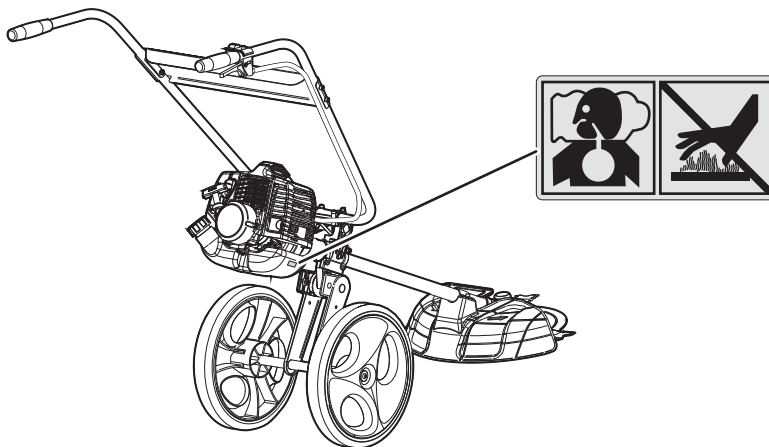
1. ラベル

- ラベルははっきり見えるように、常にきれいに保ってください。
- ラベルが汚れて見えなくなった場合や、汚れ・紛失などした場合には、購入店に注文し貼り替えてください。またラベルが貼られている部品を交換する場合、ラベルも新しいものに交換してください。

 危険 始動の際や使用中は半径15m以内に他の人や動物などを近づけない 飛散防護カバーを必ず指定の位置へ取り付けてから運転を行う	 警告 安全のため、保護めがね、イヤーマフ、すね当てなどの保護具を必ず着用する 回転部からの飛散物に注意する 雨中では使用しない 回転部周辺に触れる時は、草がからむなどして回転部が止まっても、必ずエンジンを停止してから作業を行う	 注意 運搬・保管時は燃料を抜く 使用前に取扱説明書を必ず読む	 取り扱いのポイント  冷却風取入口 冷却風取入口に付いた草やゴミを取り除いてください 取入口がふさがるとエンジンが故障します	2サイクルエンジン 混合ガソリン 50 : 1 オイル…2サイクル用オイル(FC、FD級)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------



警告
刈取部と飛散防護カバーは純正部品を使用する



はじめに

準備

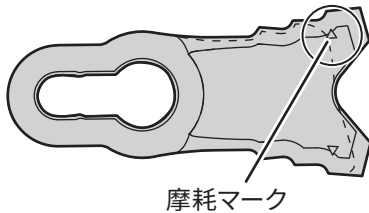
使用方法

保守・点検

その他

2. ブレードが削れてきたら

ブレードは草を刈る面が2面あります。草を刈る面の摩耗マークが削れて見えなくなったら、ブレードを裏返して取り付けてください。



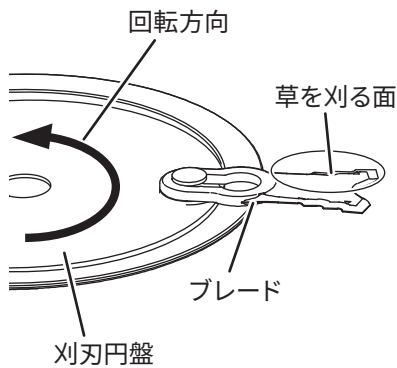
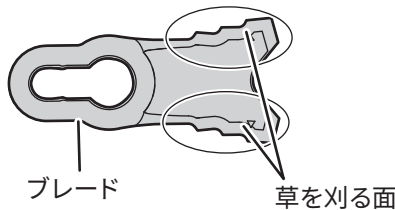
1) ブレードを取り外す

(15ページ「2. 取り外し」参照)

2) 取り外したブレードの未使用の面を刈刃円盤の回転方向に注意して取り付ける

ブレードを裏返して、草を刈る面が必ず刈刃円盤の回転方向側になるようにします。

(15ページ「1. 取り付け」参照)



- 折れたりヒビが入ったり、2面すべてを使用したブレードは、新品に交換してください。
- 摩耗して切れ味が悪くなったブレードで刈り続けると、本機に過負荷がかかり故障のおそれがあります。

3. エンジン

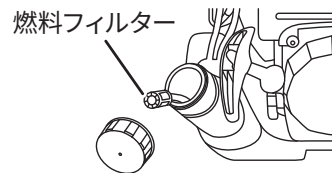
3.1 燃料フィルターの清掃

用意するもの

- 針金など
- きれいな白灯油

1) 針金などで燃料注入口から引き出して、きれいな白灯油で洗浄する

汚れがひどいときは、フィルターを交換の上、タンク内も洗浄します。



3.2 点火プラグの清掃・点検・交換

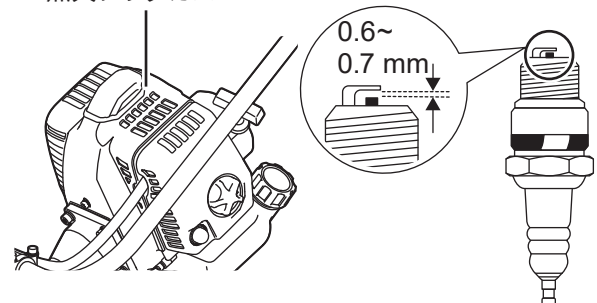
用意するもの

- 指点火プラグ：チャンピオンRCJ6Y
- プラグレンチ（付属品）

ここがポイント！

- 故障の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- プラグがぬれているときや汚れているときは、布切れなどで拭いてください。
- プラグのすき間は0.6～0.7 mmで調節してください。

点火プラグカバー



- プラグ交換後はプラグカバーを必ず閉じてください。



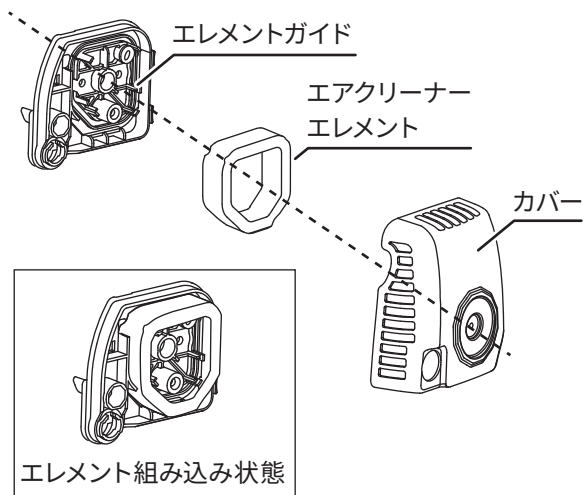
ここがポイント！

- プラグの清掃やすき間調節をしてもエンジンが始動しない場合は、新しい点火プラグに交換してください。

3.3 エアクリーナーの清掃

用意するもの

- きれいな白灯油
- きれいなエンジンオイル



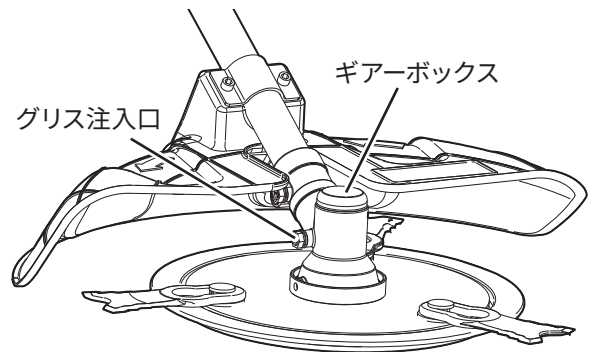
- 1) エレメントを白灯油で洗浄し、よくしぼる
- 2) エンジンオイルに浸し、押しつぶすようにしぼる
オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。
- 3) 元通りケースに組み込む

4. ギアボックス

4.1 グリス補給

用意するもの

- リチウム系万能グリス2号



- 1) ギアボックス周囲にこびりついた草などをきれいに掃除する
ギアボックス内部への異物の混入を防ぎます。
- 2) グリス注入口のボルトを外してグリスを注入する
穴からグリスが少し出るまで注入してください。
- 3) 出てきたグリスを拭き取り、元通りにボルトを締め付ける

仕様

1. 主な仕様

機種名	EFR-26C	
製品名	手押し式エンジン草刈機	
用途	雑草の草刈り	
刈刃	使用刃物	ブレード
	刈込幅	355 mm
	ブレード取り付け方法	ワンタッチ式
	刃物回転方向	反時計回り（使用者から見て）
燃料消費	約50分（使用条件によって異なります）	
製品寸法	使用時	長さ 1270×幅 550×高さ 900 mm
	折りたたみ時	長さ 1210×幅 550×高さ 400 mm
製品重量	10.9 kg（付属品を含む）	

2. エンジン諸元

エンジン種類	空冷2サイクルガソリンエンジン	
モデル	工進 KC26-F	
総排気量	26 cm ³	
最大出力	0.7 kW (0.93 PS) / 7,500 rpm	
使用燃料	2サイクルオイル混合ガソリン	
	混合比	50（ガソリン）：1（オイル）
	ガソリン	レギュラーガソリン
	オイル	2サイクル用エンジンオイル JASO規格FCまたはFD級
燃料タンク容量	約0.6 L	
点火プラグ	RCJ6Y〈CHAMPION〉	
始動方式	リコイルスターター方式	

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。
また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧いただけます。

1. ご注文時のお願い

部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パーツ表・価格

1) <https://www.koshin-ltd.co.jp> へアクセス



2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック



3) エンジンのパーツは「エンジンパーツリスト」バナーをクリック



3. 主なパーツ

名称	機種名・JAN	備考
ブレード	機種名：PA-526 JAN：4971770-202221	12枚入り

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

KOSHIN 保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種	手押し式エンジン草刈機 EFR-26C		*お買い上げ日		年	月	日
保証期間	お買い上げ日より1年間		*購入店	〒			
お客様	*お名前			住所			
	*ご住所	〒	店名				
	電話	()	電話	()			

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
 - 取扱説明書に記載の用途以外の目的に使用による故障または損傷。
 - 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
 - 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
 - 同梱付属品、消耗品の交換。
 - 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
 - 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
 - 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書) 貼付位置

お問い合わせ

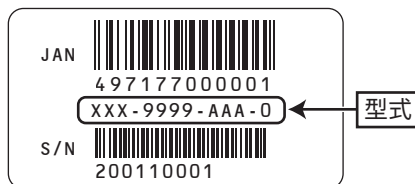
【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■ 製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■ 製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

Q&A
Eメール お客様サポートページ

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp

電話 **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
キョウトのコーシン
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。